

はじめに

地域の日本語教室には、さまざまな目的をもった外国人の方々^{がいこくじん かたがた まな}が学んでおり、学習者^{がくしゅう}にとってそこは、日本語の学習の場であると同時に生活面^{せいかつめん}でのさまざまな相談^{そうだん}を持ちこ^こち^ち込める場でもあります。

そのような教室の役割を主に担っているほとんどの方は日本語教育の専門家^{せんもんか}ではなく、市民ボランティア^{しみん ぼらんていあ}としての学習支援者^{がくしゅうしえんしや}であり、外国人学習者^{がいこくじんがくしゅうしや}を、ともに地域社会^{ちいきしゃかい}を生きる市民^{しみん}として受け入れ、寄り添い、現実にある具体的な問題^{けんじつ}に柔軟かつ継続的^{くわんぞくてき}に対応^{たいおう}されています。

平成21年度の調査^{たしおう}では、大阪府内の約225の教室に約5,500人の学習者^{がくしゅうしや}が学んでおり、外国人学習者^{がいこくじんがくしゅうしや}がその約86%を占めていました。その後、学習者数^{がくしゅうしやすう}は若干減少傾向^{じやうかんげんしやうけいこう}にあるようですが、日本語教室で学習支援^{がくしゅうしえん}に携わっておられる方々からは、外国人学習者^{がいこくじんがくしゅうしや}の多国籍化^{たこくせきか}や来日事情^{らいにちじじょう}の複雑化^{ふくざつか}に伴う多様なニーズ^{たよな}に対応^{たいおう}することの困難^{こんなん}さはこれまでよりも増しているという声^{こえ}が聞こえてきます。

こうした状況下^{じやうきぎやうか}にある学習支援活動^{がくしゅうしえんかっどう}の一助^{いちじよ}とすべく、今年度も新たな教材^{こんねんど あら きょうざい}を作成^{さくせい}いたしました。この教材^{きょうざい}は平成21年度に作成^{へいせい}した「もっとしゃべろ!! ~自分でつくる学習ノート」^{じぶんでつくるがくしゅう}の続編^{ぞくへん}となるもので、前回の動詞編^{ぜんかい どうしへん}に続く形容詞・副詞編^{けいようし ぶくしへん}となっています。

地域の誰も^{ちいぎ だれ}が、学習者^{がくしゅうしや}と関わる場合^{かか}の道標^{ぼあひ}となり、同時に学習者^{みちしるべ}も利用できるもの^{どうじ がくしゅうしや りよう}というコンセプト^{こんせぷと}はそのままに、学習者^{がくしゅうしや}と学習支援者^{がくしゅうしえんしや}が対話^{たいわ}の中で学習^{なか}を進めていける教材^{がくしゅう}としています。

この教材^{きょうざい}を府内の識字・日本語教室関係者^{ふない しきじ にほんごきょうしつかんけいしや}をはじめとする多くの方々^{おお かたがた りよう}にご利用いただき、学習者^{がくしゅうしや}と学習支援者^{がくしゅうしえんしや}がともに学び^{まな}を深めてい^{ぶか}かれることを期待^{きたい}しています。

最後^{さいご}になりましたが、この教材作成^{きょうざいさくせい}にご協力^{きやうりよく}いただきました関係^{かんけい}のみなさまに改めてお礼^{らいもう}申し上げます。

平成25年3月
へいせい ねん がつ

大阪府教育委員会事務局
おおさかふきょういくいんかいじむきょく

市町村教育室地域教育振興課
しちやうそんきょういくしつちいききょういくしんこうか

課長 吉原 孝
かちやう よしはら たかし

もくじ



はじめに	1
本書の使い方	3
<small>ほんしよ つが かた</small>	
ちょっとだけ日本語文法	5
<small>にほんご ぶんぽう</small>	
第1章～ちょっとしゃべろ!!～	9
<small>だい しょう</small>	
・い形容詞	10
<small>けいようし</small>	
・な形容詞	31
<small>けいようし</small>	
・副詞	51
<small>ふくし</small>	
第2章～もっとしゃべろ!!～	63
<small>だい しょう</small>	
第3章～ちょっとやってみよ!!	
<small>だい しょう</small>	
自分の辞書をつくろう～	79
<small>じぶん じしょ</small>	
作成者プロフィール	92
<small>さくせいしゃ ぷろふいーる</small>	

